

病理学各論Ⅱ

科目責任者 石田和之
学年・学期 3学年・2学期

I. 前 文

各臓器の様々な疾患の病態を主に形態学的観点から系統的に学習し、疾患の発症・進展に関わる分子病理学を併せて学習する。病理学各論は臨床医学のあらゆる分野の基本となる必須科目であり確実に習得しなくてはならない。単位は規定の出席日数を満たし筆記試験に合格した場合にのみ授与する。試験は講義で学んだ内容を中心に出题する。

II. 担当教員

教授 石田和之 (病理診断学)
講師 金子有子 (病理診断学)
講師 松田葉月 (病理診断学)
助教 河辺昭宏 (病理診断学)
非常勤講師 井村穰二 (病理診断学)

教授 矢澤卓也 (病理学)
石丸直澄 (口腔外科学)

III. 一般学習目標

疾患の形態学的変化を学習する。その形態学的変化を引き起こす生理学的、生化学的、遺伝子学的変化を併せて学習するとともに、様々な臓器の疾患が全身に及ぼす影響についても総合的に理解する。

IV. 学修の到達目標

レベル：解剖学，生化学，生理学，感染症及び病理学総論の基礎的知識が要求される。

目標達成のためのキーワード：病因，病態と機序，肉眼及び組織形態像，合併ないし転帰。

- 1) 臓器ごとの疾患の病因を説明できる。
- 2) 各疾患の病態（成り立ち）について形態学を中心に学び、なかには遺伝子・分子レベルでの病態として理解すべきものを含め、その病変を説明できる。
- 3) 病変の肉眼及び組織形態学的変化は、教員の提示する資料や参考書を見て、病変の形態のイメージをみずから頭に描き説明することができる。
- 4) それぞれの疾患の病変が及ぼす個体への影響を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション，ディベート 3：グループワーク 4：実習，フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他 空欄：該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	8	26	水	2	呼吸器 非腫瘍性肺疾患の病理 (1)	矢澤卓也	1
2		26	水	3	呼吸器 非腫瘍性肺疾患の病理 (2)	矢澤卓也	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
3		26	水	4	呼吸器 非腫瘍性肺疾患の病理 (3)	矢 澤 卓 也	1
4		26	水	5	呼吸器 腫瘍性肺疾患の病理	矢 澤 卓 也	1
5		27	木	1	呼吸器 胸膜縦隔疾患の病理	矢 澤 卓 也	1
6	9	10	木	1	脳・神経 脳神経系の特性と発生・先天性異常の病理	松 田 葉 月	1
7		10	木	2	脳・神経 脱髄 (中毒・代謝異常を含む)・変性疾患の病理	松 田 葉 月	1
8		10	木	3	脳・神経 感染性神経疾患の病理	松 田 葉 月	1
9		11	金	2	脳・神経 脳血管障害と頭部外傷の病理	松 田 葉 月	1
10		11	金	3	脳・神経 脳腫瘍の病理	松 田 葉 月	1
11		28	月	4	耳鼻・咽喉・口腔 口腔領域の病理	石 丸 直 澄	1
12	10	15	木	1	内分泌・代謝 内分泌病理の総論および視床下部・下垂体	矢 澤 卓 也	1
13		15	木	2	内分泌・代謝 甲状腺・副甲状腺疾患の病理	矢 澤 卓 也	1
14		16	金	1	内分泌・代謝 副腎疾患の病理	井 村 穰 二	1
15		16	金	2	内分泌・代謝 膵内分泌腫瘍, 糖尿病と合併症の病理	井 村 穰 二	1
16		16	金	3	細胞診	井 村 穰 二	1

分類	コマ数
呼吸器	5
脳・神経	5
内分泌・代謝	4
耳鼻・咽喉・口腔	1
細胞診	1
計	16

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

以下のとおり成績評価する。()内は評価の割合。

定期試験 (90%), 出席状況・態度 (10%)

なお, 定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 英文教科書は, 病変の英語的表現に慣れるために, 部分的でも良いので, どれか一冊を読むことをすすめる。

Robbins Basic Pathology. Kumar v, Cotran RS, Robbins SL

Andersons Pathology. Damjanov and Linder (or Kissane)

- 2) 和文教科書は特定しないが, 最新改訂版ないし最新著書が望ましい。

解明病理学 医歯薬出版, 第4版

標準病理学 医学書院, 第7版

医歯薬出版ルービンカラー基本病理学（河原他訳）西村書店，第5版

3) 病理形態マクロ・組織の参考書

正常画像と比べてわかる病理アトラス

ロビンス基礎病理学 丸善出版，原書11版

アンダーソン病理学カラーアトラス MEDSi

組織病理アトラス 文光堂，第6版

4) その他

細胞診を学ぶ人のために 医学書院，第6版

病理解剖ビジュアルテキスト 金芳堂

VIII. 質問への対応方法

①随時，受け付ける。但し，事前に秘書を通じ，アポイントを取ること。

②原則，毎週月～木の12時～17時まで。但し，会議等により留守にする場合もあるので，予め連絡をとること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	○
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について，間違いや誤解が多い点を随時解説します。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学修（30分）：正常の組織像等に関する資料を前もって配布するので，資料の内容を理解すること。

事後学修（30分）：教科書，配布資料を参考にして実習で学んだ疾患の臨床病理所見を整理する。所要時間等はシラバス別冊を参照。

*コマごとの詳細な内容はシラバス別冊に記載しています。

XII. コアカリ記号・番号

PS-02-07-01, PS-02-07-05,

PS-02-03-01, PS-02-03-05, PS-01-02-08, PS-01-02-09, PS-01-03-18, PS-02-14-05, PS-01-04-7, PS-01-04-8,

PS-01-04-9, PS-01-03-02, PS-01-03-09, PS-03-03-02, PS-03-03-03, PS-03-04-10, PS-02-14-01, PS-02-14-05,

PS-03-04-18, PS-02-16-01, PS-02-16-05, PS-03-04-19